

プレガードⅡ

特長

NETIS（新技術情報提供システム）登録
SK-060003-V

施工性・環境性に優れます

7割の工期短縮
L型擁壁背面に設置した場合は調整コンクリート不要
軽量だから小型機械で施工可能
型枠不要による廃棄物処理が減少
工期短縮、施工機械半減によるエネルギー抑制
カーブ施工及び縦断施工が可能

経済性・安全性に優れます

現場打ち構造と同等以下の経済性
連結による一体化で軽量化を実現
静的実物大実験により性能を確認
設置時の効率アップ

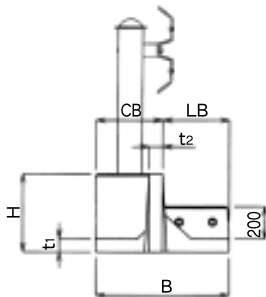
維持修繕にも最適です

既存擁壁のガードレール取替え時に天端から0.5mの修繕で対応可能
プレガードの取替えが発生した場合は部分的な取替が容易

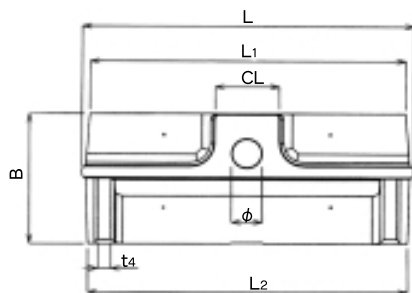


形状

側面図



平面図



寸法表

単位：mm

呼び名	B	H	CB	CL	t ₁	t ₂	t ₄	LB	L	L ₁	L ₂	参考質量(kg)	
BC-20	800	480	400	400	80	80	80	400	2000	1900	1925	175 (185-165)	630
BC-18											1919		666
BC-16	1913										705		
BC-14	1906										743		
BC-12	1900										781		
BC-10	1100												
BC-8	1200												
許容差	+10,-5				+5,-2				+10,-5		+5,-2		

プレガードⅡ

プレガードの施工手順

① 基礎工

碎石厚100mm、敷きモルタル
均しコンクリート100mmを標準とします。

② 製品のつり込み状況

側壁や底版部材に過度の応力が発生しないように留意し、
運搬時には、過度の衝撃を与えないように注意して下さい。

③ 製品の設置

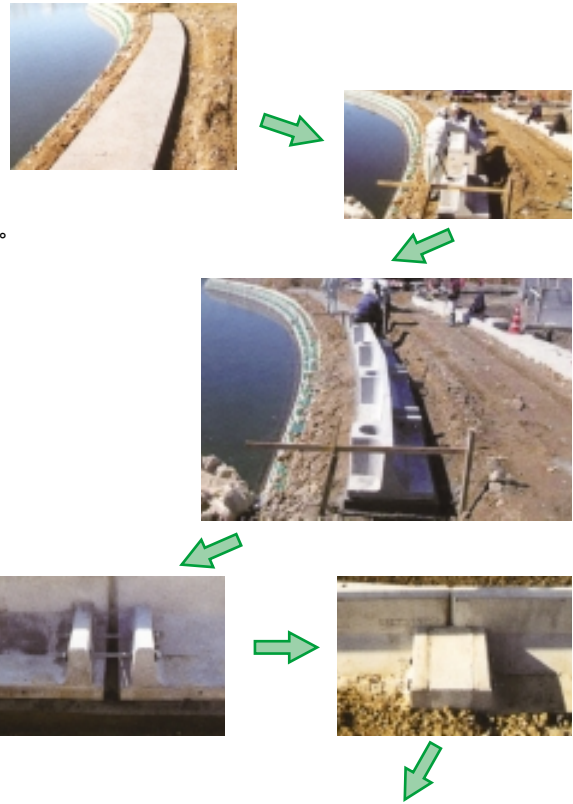
据え付け用の丁張りを設置し、丁張りに沿って
所定の位置、高さで正確に設置して下さい。

④ 連結金具接続工

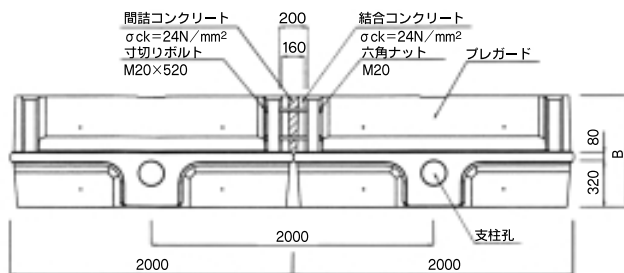
連結ボルトを製品両側に通し、樹脂ナットを締め
付けて下さい。その後、六角ナットの締め付けを
行なって下さい。

⑤ 間詰めコンクリート打設

間詰めコンクリートの目的は、連結筋の固定であり、
開口部まで入念にコンクリートが行き渡るように行
なって下さい。

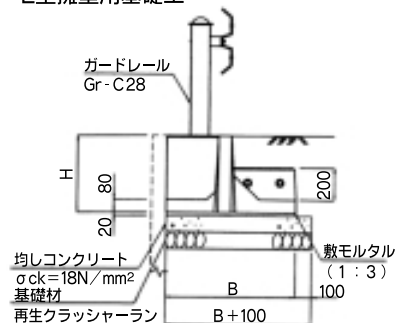


標準施工図

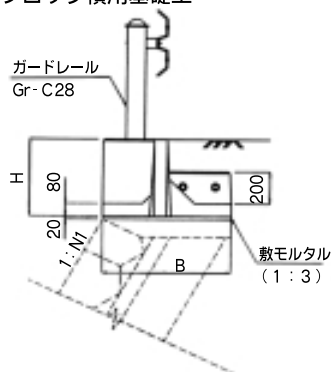


標準基礎構造

L型擁壁用基礎工



ブロック積用基礎工



大型ブロック用基礎工

